

第 3 1 回 運転管理検討会 議事録

1 . 開催日時：平成 2 4 年 1 月 2 5 日（水） 1 3 : 3 0 ~ 1 6 : 3 0

2 . 開催場所：日本電気協会 4 階 D 会議室

3 . 参加者 （順不同，敬称略）

委員：坂元主査（日本原子力技術協会），大和田副主査（東京電力），市川（電源開発），久保田（日本原子力技術協会），斉藤（北海道電力），酒井（中国電力），嶋本（中部電力），中林（三菱重工業），古舘（東北電力）三屋（関西電力），宮北（BWR 運転訓練センター） （計 11 名）

代理出席者：加藤（日本原子力発電・名知代理），稲富（九州電力・河津代理），見勢（四国電力・村上代理），宮森（北陸電力・大畠代理），佐久間（日立 GE ニュークリア・エナジー・村田代理） （計 5 名）

欠席：金子（原子力安全・保安院），瀧澤（東芝），松本（原子力発電訓練センター）， （計 3 名）

事務局：大滝（日本電気協会） （計 1 名）

4 . 配付資料

資料 31-1 運転管理検討会委員名簿

資料 31-2 第 30 回運転管理検討会 議事録（案）

資料 31-3 原子力規格委員会 運転・保守分科会 平成 24 年度活動計画（案）

資料 31-4 公衆審査意見への対応について（周知）

参考資料 1 第 41 回原子力規格委員会議事録（案）

5 . 議事

（ 1 ）会議定足数の確認について

検討会副主査により，委員総数 19 名に対して本日の出席委員数は，代理委員も含めて 16 名で，検討会決議に必要な委員総数の 2 / 3 以上の出席が確認された。

（ 2 ）代理参加者の承認について

上記，代理出席者 3 名の会議参加について，検討会副主査から承認された。

（ 3 ）前回議事録（案）の承認

資料 31-2 の第 30 回運転管理検討会議事録（案）については，事前に各委員に配布され，特にコメントはなかったことが事務局より紹介され，承認された。

（ 4 ）第 41 回原子力規格委員会議事録（案）の紹介

事務局より，参考資料 1 に基づき，第 41 回原子力規格委員会議事録（案）が紹介された。

- ・各分野の規格策定活動の報告の中で、Accident Management 規格について3学協会での協議、分担して取り組むことで議論が始まっている。電気協会の中だけで考えても、耐震設計分科会だけでなく、安全設計分科会や運転・保守分科会にも検討する課題は出てくるかもしれない。広く各学協会、分科会で取り組むという趣旨である。

(5) 公衆審査意見への対応についての周知

事務局より、資料 31-4 に基づき、「公衆審査意見への対応について(周知)」が紹介された。

- ・公衆審査意見として規格の使い方に関する質問があった場合は、運営規約細則 4.4 質疑応答の審議細則 (3) 質疑応答の作成(f)(g)項によく留意して、回答すること。
- ・これまで公衆から提出された質問のうち、検討会/分科会で回答に工夫を要したと思われるものを表 1, 2 のとおり抽出したので、回答する際の参考にすること。
- ・公衆審査の趣旨「規格を制定・改定・廃止する前に、その影響が及ぶ対象者などの意見を事前に聴取し、その結果を反映させることによって、よりよい規格づくりを目指す。」を踏まえて回答すること。

(6) 平成 24 年度活動計画(案)の検討

坂元主査より、資料 31-3「原子力規格委員会 運転・保守分科会 平成 24 年度活動計画(案)」に基づき、JEAG4802-2002「原子力発電所運転員の教育・訓練指針」、JEAC4804-2011「原子力発電所運転責任者の判定に係る規程」及び「原子力発電所運転責任者の判定に用いるシミュレータに係る規程」の活動計画(案)について紹介された。

以下のコメントに記載されているとおり修文したものを次回の運転・保守分科会の審議に上程することとする。

各委員から出された主なコメント及び対応は以下の通り。

- ・JEAC4804-2011「原子力発電所運転責任者の判定に係る規程」の「平成 24 年度活動計画」として、福島第一原子力発電所の事故等から得られる教訓の抽出及び検討をするので、その旨を記載することとする。また、福島第一原子力発電所の事故等から得られる教訓の抽出及び検討には、事故の原因分析等が進んでから得られる教訓もあるかもしれないので、「平成 24 年度活動計画」と「中長期活動計画(改定時期及び検討項目)」の両欄に「福島第一原子力発電所の事故等から得られる教訓を抽出し、当該指針に反映すべきものについては適宜反映について検討する」ことを追記する。
- ・JEAC4804-2011 の「中長期活動計画(改定時期及び検討項目)」の記載文がくどいので簡潔に「技術基準に適合可能な規格の姿を整理し、改定を進める」とする。
- ・JEAC48XX-20XX「原子力発電所運転責任者の判定に用いるシミュレータに係る規程(仮称)」についても、今後、事故の原因分析等が進んでから得られる教訓もあるかもしれないので、「中長期活動計画(改定時期及び検討項目)」欄に「福島第一原子力発電所の事故等から得られる教訓を抽出し、当該指針に反映すべきものについては適宜反映について検討する」ことを追記する。
- ・「東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会」の中間報告で、運転員が「IC の機能等が十分に理解されていたとは思われず、また社員がその運転操作につ

いて習熟していたともいえない」と記載されており、今後、運転員の教育・訓練の拡充が必要になってくる。JEAG4802-2002「原子力発電所運転員の教育・訓練指針」の「平成 24 年度活動計画」は、「福島第一原子力発電所の事故等から得られる教訓を抽出し、当該指針に反映すべきものについては適宜反映について検討する」こととする。

- ・ JEAG4802-2002 の「中長期活動計画（改定時期及び検討項目）」は、「原子力発電所運転員の教育訓練等の運用実績を踏まえて改定の必要性、時期等を検討する」こととする。

(7) その他

- ・ 次回検討会は 4 月を予定するが、具体的日程については別途調整する。

以 上